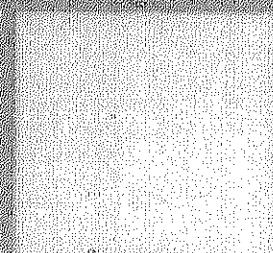


日中NGO交流・連携・発展シンポジウム 報告書



JICA



独立行政法人 国際協力機構 (JICA)
中国国際民間組織合作促進会 (CANGO)

2005年12月 中国・北京

中国事

JR

06-10



この報告書は日中両国の NGO の交流を
積極的に推し進めている皆様にお贈りするものです





1182408 [3]

はじめに

2005年12月1日-3日、「日中 NGO 交流・連携・発展シンポジウム」が北京の二十一世紀ホテルにおいて開催されました。同シンポジウムには日本の NGO 6 団体、中国の NGO 33 団体の代表、民政部民間組織管理局廖鴻巡視員、日本大使館経済部遠藤和也参事官、日中両国の研究者、NGO 活動に関心を持つメディア関係者等合計約 80 名がこのシンポジウムに出席しました。

中国の改革開放政策の絶え間ない深化と市場経済の加速度的進展に伴って、政府に協力して社会公益事業に携わり、国際協力などを推し進める NGO 組織が絶えず発展し規模も大きくなっています。中国民政部民間組織管理局の廖鴻巡視員のシンポジウムでの発言によると、中国の NGO は、1988 年の 4,446 団体から 2004 年には 28 万 9,000 団体に増加し、その年間成長率は 34% に達しているとのことです。中国政府が挙げている「小さな政府、大きな社会」という全体目標の下、各種の NGO が社会のさまざまな分野でますます重要な役割を担ってきています。

一方、隣国の日本では、1995 年の阪神淡路大震災での市民ボランティアの活動を契機に、1998 年に特定非営利活動促進法（NPO 法）が制定し施行された後、日本の NGO も急速に発展してきました。2004 年 1 月末現在、15,000 を超える NPO が法人登録されています。これらの NGO は中央政府と地方自治体との連携の中で非常に豊富な経験を蓄積しており、試行錯誤をしながら確実に活動の範囲と内容を広げてきています。また、海外で活動する団体も少なからず存在しています。特定非営利活動法人国際協力 NGO センター（JANIC）が 2004 年にまとめた統計によると、現在、354 の日本の NGO が海外で活動しており、その中に中国で活動している団体は数十団体あるとのことです。これらの団体はそれぞれ環境保護、農村の開発、医療衛生、教育などの分野で中国の NGO と連携して活動をしています。

日本と中国の NGO がそれぞれ活発に活動している状況がある一方、日中の NGO 間の交流と連携はいまだ未成熟な段階にあります。一方では、中国の NGO 関係者は国際 NGO と協力関係を熱望していますが、情報と能力の不足に苦しみなかなか実現できていません。他方、日本の NGO は中国で事業を展開することに希望を抱いていますが、中国の NGO の性質、及び全体環境に対する知識の不足で足を踏み出すことに躊躇しています。以上の現状に鑑み、日中の NGO に交流と討論の場を提供し、情報と経験の交流を通してそれぞれの団体の事業を開拓し、組織と運営の能力を高め、また同時に日中双方の相互理解と、よりよいプロジェクトを発掘し、連携への道を模索しながらしっかりした基礎を作るために、独立行政法人国際協力機構（JICA）中国事務所と中国国際民間組織合作促進会（CANGO）が共催でこのシンポジウムを催しました。

三日間の至近距離での接触と交流を通じて、日中の参加者とも、日中の NGO 自身の発展に伴って、相互交流と連携の願いが日ごと切実になっていることを感じました。如何にして意思疎通を強め、情報の共有を実現し、お互いの長所で自分の短所を補い、自身の活動能力を高める上で、相応しい協力相手を見つけるかは、日中両方の NGO が直面する共通の課題であります。同時に、日中の参加者とも、ただ NGO 自身の力だけではまだ不十分で、政府の理解と支持を得なければならぬと感じています。あらゆる調達可能な資源を利用して、良好な環境の元でしかいいプロジェクトの実現と最高の協力の結果を成し遂げることができません。これは今回のシンポジウム

で得た重要な共通認識と言えるでしょう。

今回のシンポジウムの成果と参加者の感想をまとめ、我々はこの報告書を編集しました。日中の関係者が今回のシンポジウムの成果を共有すると同時に、多くの協力関係を結びたい日中の NGO 関係者により多くのより有効な情報を提供することを希望します。また、これからもこれらの資源が十分に有効に利用され、このような交流も引き続き広めていき、日中双方が NGO 分野での更なる連携と発展を進めるよう希望します。ASIAN COMMUNITY CENTER 21 (ACC21) の伊藤道雄代表理事の言葉で言うと「今回のシンポジウムを、今後日本と中国の NGO が協力関係を深めていくうえでの準備段階のものと理解します。まだ、正式な第一歩を踏み出したとは言いがたいものがあります。」中国の諺で「道が長くてなすすべがなく、ただひたすらに努力するだけ」というように、私たちは日中の NGO と一緒に試行しながら絶えず模索していくつもりでいます。

この報告書が完成するに当たって、シンポジウムの開催に大いなる支持と協力をしてくださった特定非営利活動法人・国際協力 NGO センター (JANIC)、はるばる遠くからこのシンポジウムに参加してきた日中の NGO 関係者、マスコミの方々及びさまざまな面から我々に協力と支持を下さった方々に、心より感謝の意を表したいと思います。同時に、ボランティア活動及び日中友好を促進する活動に携わるすべての有識者の方々に、崇高な敬意を表したいと思います。

平成 18 年 3 月

シンポジウム事務局

日本側：日本国際協力機構中国事務所

中国側：中国国際民間組織合作促進会

目 次

第1章 シンポジウム概要	1
1 日程	1
2 出席者名簿	3
3 開会挨拶	6
4 基調講演	13
5 分科会	23
6 NGO 活動現場視察（現場の写真）	36
7 質疑応答	37
8 総括発言	38
第2章 シンポジウム総括	43
1 主催側のまとめ	43
2 団体代表の感想文	46
3 アンケート調査の集計と分析	53
第3章 参考資料	58
1 参加団体の概要	58
2 日本政府と NGO 間の連携及び支援	92
① 日本大使館 草の根・人間の安全保障無償資金協力	92
② JICA 草の根技術協力事業	94
③ 中国 NGO-JICA ジャパンデスク	98
3 基調講演者の略歴及び参考資料	99
4 シンポジウムに関する新聞報道一覧	115

